

おわりに

2004年7月のある日、IIW（International Institute of Welding）の年次大会に参加するため大阪にいた私は、九州大学の日野先生から電話をいただいた。土木学会鋼構造委員会道路橋床版の合理化検討小委員会に設置された明治橋分科会の主査を引き受けて欲しいとの依頼であった。当時、日野先生が分科会主査を務められていたのだが、先生が分科会の親委員会である小委員会の委員長に就任することが内定し、分科会主査との二足のわらじは困難であるからという理由であった。それまで私は明治橋の存在すら知らず、しかも専門が鋼構造の耐震設計や疲労設計であり、土木史の分野に対する知識もほとんど持ち合わせていなかったため、お引き受けするのを躊躇した。しかし、「明治橋は大分県にある歴史的な鋼橋であり、ぜひ九州内の大学教員に主査をやって欲しい」あるいは「分科会メンバーの方々に実質的な作業は任せ、取りまとめをやってもらえばいい」といった日野先生のお言葉を拝聴し、浅学を顧みずお引き受けすることとした。これが、私が明治橋分科会の活動に参画することとなったいきさつである。

実際、2007年3月には土木学会・(社)日本橋梁建設協会・日立造船(株)の3者による合同調査が実施されるなど、私が携わるようになった時には調査・検討がかなり進んでいる状態であった。そのため、1年程度で報告書を取りまとめることができるだろうと高をくくっていたのだが、結局、約3年の時間を要することとなってしまった。その間、橋梁業界を取り巻く環境が激変し、活動を実施するのに困難を伴う期間もあったとはいえ、このように報告書の完成が遅れたのは私の力量不足によるものであり、この点に関してお許しを願いたい。

しかし、完成した報告書を改めて眺めてみると、明治橋の土木遺産としての価値が、系譜、技術・意匠、使用材料、近隣住民の意識という観点から評価されているのに加え、現在の損傷状況の調査結果に基づき、今後遺産として保存していくために必要な補修方法が提案されているなど、非常に充実したものとなっている。このような立派な報告書が完成したのは、ひとえに分科会メンバーの精力的な活動によるものであり、心から敬意を表するとともに、感謝を申し上げたい。

日野先生が「はじめに」で指摘されているように、明治橋は架設後100年の長きにわたり道路橋あるいは人道橋として供用されてきているが、必ずしも十分なメンテナンスが行われてこなかったため、腐食劣化の進行等、かなり厳しい状況にある。この3年間における分科会での調査、検討を通して改めて明らかとなった明治橋の土木遺産としての価値を考えるにつけ、できるだけ早く必要な補修が実施され、将来にわたって架設当時の面影を残したまま、原位置で地元の方々に利用されることを望んでやまない。さらに、明治橋を国の重要文化財とするための活動に対して、本報告書が有効利用されることを切に希望するものである。

平成20年4月4日
土木学会鋼構造委員会
道路橋床版の合理化検討小委員会
明治橋分科会
主査 中村 聖三

協力者一覧

I. 団 体

1. (社)土木学会鋼構造委員会歴史的鋼橋の補修補強に関する調査研究小委員会
2. 同 西部支部土木遺産選考委員会
3. (社)九州建設技術管理協会
4. (社)日本橋梁建設協会
5. 国土交通省九州地方整備局
6. 同 佐伯河川国道事務所
7. 大分県土木建築部
8. 同 教育庁文化課
9. 臼杵市（旧大野郡野津町）
10. 九州大学工学研究院建設デザイン部門環境設計材料工学講座
11. 日立造船(株)（現：日立造船鉄鋼(株)）
12. (株)さとうベネック
13. 住友大阪セメント(株)

(順不同)

II. 個 人

1. 岡崎文雄氏（大分県生涯学習指導者）
2. 長田大輔氏（臼杵市教育委員会）
3. 森川卓子氏（住友大阪セメント(株)）
4. 楠 隆氏（新日本製鐵(株)）
5. 嶽下裕一氏（当時，日立造船(株)）
6. 田浦扶充子氏（当時，九州大学大学院生，現オリエンタルコンサルタンツ）

(順不同)

明治橋の歴史的価値と保全方法

平成20年4月11日印刷

平成20年4月25日発行

編集者	東京都新宿区四谷一丁目（外濠公園内）	土木学会鋼構造委員会 道路橋床版の合理化検討小委員会
発行者	東京都新宿区四谷一丁目（外濠公園内）	明治橋分科会 土木学会古木守靖
発行所	東京都新宿区四谷一丁目（外濠公園内）	社団法人土木学会

〒160-0004/電話 (03)3355-3441番(代表)
